

第2回豊橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会
議事録（要旨）

日時：平成27年7月29日（月）午後6時半～8時45分

場所：東館4階 政策会議室

(発言者)	(要旨)
白井委員	<ul style="list-style-type: none">・東三河広域連合が核となった事業をやらなければならない。・高齢者が住みやすい地域でなければ、若い人たちも自分の将来を考えて定着しない。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none">・広域連携により大きな成果を得られる取組みもあり、広域連携を活かした事業の提案をしていこうと考えている。豊橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）の5番目の戦略が増えたのは、そのような議論が本市の内部でもあったからである。・子育てのためや、50歳を過ぎてから親の介護のために、仕事を離れなければいけないことが問題となっている。・若者を視野に入れたまちづくりとは、単に若者のためだけの事業を行うことではなく、高齢者のこともしっかり考えた事業を行うことであると感じた。
福井委員	<ul style="list-style-type: none">・岐阜県に、子どもの割合が非常に高い集落があり、中学生以下の子どもの割合が26%もある。働く場が近くにあるわけではないのに、高校入学のために集落を出た人たちが再び戻ってきている。・ここは山の中の孤立した集落であり、自分たちのことは力を合わせて自分たちでやる、という風土がある。・ふるさとで暮らしたいと思い、集落を出て行った人たちが戻ってくる。それは子どもの頃の体験や、高齢者のことを思う気持ちからではないか。子どもの頃からふるさとを愛する気持ちをどのように育ていけばいいのか。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none">・熊本県天草市の農家では、そのまま子どもに仕事を継ぐようには言わず、50歳まではやりたい仕事をやらせ、50歳を過ぎたら戻ってこられる環境を整えている。・ふるさとの良さを伝えることは大事である。豊橋市は水も食べ物もおいしい。そのことを感じていないことはもったいない。

太田委員

- ・豊橋市内の大学生の出身地や就職先、あるいは高校卒業後に首都圏に出て、どれくらいの人がUターンしているのかなど、正しいデータを把握して情報を提供していただきたい。
- ・介護の問題は女性ばかりではなく、男性も仕事を早くやめるケースが結構ある。

佐原会長

- ・周りの人たちは正しい情報を案外知らない。正しい情報をしっかりと発信していかないといけない。

伊藤委員

- ・豊橋創造大学への進学者は、豊橋市出身者が4割である。これを豊橋市から東三河地域や三遠南信地域に拡大すると7割、愛知県まで拡大すると9割が地元出身者である。
- ・短期大学の卒業生は、ほぼ100%が地元就職している。また、大学の卒業生は、東京等で就職する人は7.8%であり、就職先としては病院が多い。

佐藤委員

- ・愛知大学の豊橋校舎について言えば、豊橋市内の高校生はなかなか志願してくれず名古屋を見ている。
- ・基本的に自宅通学が多い。三好にも校舎を構えたが、夕方になると名古屋や豊田に帰っていく。
- ・ふるさとを想う心を育むには、高校までの教育が大事である。
- ・この地域が日本の産業革命の基礎となった地域ということを知っている大学生はほとんどいない。
- ・感覚的にはあるが、この地域はUターンをする方が多い。仕事のあることに加え、地域や親を思う気持ちが育まれているからではないか。
- ・豊橋市から一度は外に出てもやむを得ない。また戻ってくるようにどのような仕組みをどう考えるのか。それは、郷土への関心をもっと持ってもらうことではないだろうか。

佐原会長

- ・豊橋技術科学大学の学生は、ほとんど豊橋市外から進学してきているが、卒業後も豊橋市の近辺に住んでいる人が多い。愛知大学の卒業生もこの地域に留まる割合が高い。

- ・男性はかなり多くの方がUターンしているが、女性は少ない。愛知県として見ても、女性がUターンする割合は低い。
- 佐藤委員
- ・愛知大学では、東京に就職を希望する女性が多い。今年、東京で就職活動をした学生 400 人のうち、約 8 割が女性であった。
- 加藤委員
- ・なぜ女性が都会に流れるのかというと、やりたいことができるチャンスや場が、地方よりも都会の方が多くあるからである。
 - ・地方が魅力を備えられれば、若者が都会に流れない。若者が地元に残り活躍していけるような政策に力をいれていくとともに、他の地域から豊橋市に来ようと思えるような魅力も必要である。
- 佐原会長
- ・起業をするには、ある程度修行を積んでからになるのだろうが、まずはその入り口として、良い先輩に技術やマーケティングを教えてもらい、経験できるような職場が必要である。
 - ・愛知県全体では、ハード系の仕事は学ぶ場がたくさんあるが、女性向きの技術などを身につけるための環境は少ない。これをどのように補っていけばよいのか。
- 加藤委員
- ・いきなり起業することは大変である。勉強したり、チャレンジしたりできるようなメニューを整えることが大事である。また、チャレンジするには情報がないとできないが、若い人たちには情報が伝わらず、情報を手に入れる方法もわからない。
 - ・豊橋駅を降りて目に入る景色は、女性がよろこんでまちづくりをしたいと感じるものではない。
- 宮川委員
- ・東京の郊外にある区でも、まちなかは豊橋市よりもよく整備されている。
- 佐原会長
- ・東京は、ここ 10 年できれいになっている。それだけ東京にお金が集中しているということである。

- ・愛知県で整備が進んでいる都市は、豊田市のように財力があるところや、一宮市のように合併したところである。本市にはそれだけの財力がない。
- ・その代わり、市政 110 周年では豊橋らしさで皆さんを驚かせようと考えている。

宮川委員

- ・豊橋市には、女性が働くことのできる企業が都会に比べて少ない。また、保守的な中小企業が多いため、メリットもあるが活性化しづらい。
- ・豊橋市は零細に近い企業がんばっているまちでもある。小さい企業ならではの問題だが、女性が妊娠し、帰ってくるまでの数年の穴埋めに大変苦勞する。昔は結婚や妊娠で退職していたが、今は多くの方が職場に復帰したいと考えている。ありがたいことだが、そこには必ずこのような現実問題がある。

吉田委員

- ・中小企業が多いため、このような問題への対応は大変かと思うが、企業がチームを組み、人材プールというセクションを作って、類似した仕事なら違う会社でも就職できるといった仕組みを作ることはできないのか。

宮川委員

- ・会社ごとに様々な事情があるため、業務によっては個人情報や企業秘密が外に出てしまう恐れがあるし、もしかしたら人材がライバル会社に移ってしまう恐れもあり、難しいところもある。
- ・幼稚園や小学校など、子どもが成長するにつれて、どうしてもフルタイムで働けない期間が生じる。このことをサポートしてもらえると、企業としても女性を採用しやすいが、中小企業では、こういったことを考えている余裕がない所も多い。

佐原会長

- ・市役所でも様々な働き方を提案しており、登録しておいて、自分に合った仕事が見つかったときに働くことのできる、任期付き職員の採用をしている。これの民間企業版、しかもコーディネーターまで行う仕組みづくりが必要なのもかもしれない。

- | (発言者) | (要 旨) |
|--------|---|
| 宮川委員 | <ul style="list-style-type: none">・豊橋市は子育てにかなり支援をしていると感じている。そのことをもっと PR すれば若い女性も住み、この地域で就職するのかもしれない。企業としても環境を整える必要がある。・男女の出逢いと難しいものだが、女性が増え、就職すればその機会も増える。若者が豊橋市で就職したいと思えるような環境を整えることが必要である。 |
| 福井委員 | <ul style="list-style-type: none">・全ての農家はどうか分からないが、産休の間は他の人が仕事を代わりに行う。先程、総務や経理という話があったが、人材プールは情報を守る面で非常に不安がある。零細になればなるほど、ひとつの仕事にかかりきりになるわけにはいかない。特にハウスなどの施設では、企業秘密を守るため、外部からの視察も断っている。 |
| 白井委員 | <ul style="list-style-type: none">・農家にとって産休への対応は大変である。・子どもが多い家庭の補助金を一律ではなく、2人目、3人目、4人目となるにつれて段階的に増やしてほしい。・命の大切さ、そして子どもは国の宝ということを教えないと、これから人口は増えない。 |
| 村松委員代理 | <ul style="list-style-type: none">・中小企業を支援する「商工会及び商工会議所による小規模事業者の支援に関する法律」に基づき、経営発達支援計画を作成して国に認定されると、その計画を実行するための補助金を受けることができる。その第1回の認定が7月にあった。全国の商工会議所では、申請件数197件のうち、認定された計画はわずか31と20%を切る認定率だったが、豊橋商工会議所の計画は認定された。・計画の内容としては、ビジネスマッチングの支援や経営分析などであり、ぜひ総合戦略の中に取り入れていただきたい。・豊橋市の総合戦略の大きな要素にコンパクトシティがある。人口減少社会では、例えば農村部ではこれまでのように全ての舗装を直す余裕もないかもしれない。・小さい農地を更地にして集積し、大きな経営ができるようにするなど、大胆な政策が求められているのではないか。 |

- | (発言者) | (要 旨) |
|--------|--|
| 佐原会長 | <ul style="list-style-type: none">・インフラが整っている地域に住んでもらい負担を減らすことはよいが、それは農村部を切り捨てるということではない。・農業が富を生む産業である限り、維持する手法を考えなければいけない。農業は競争に値する産業である。ただし、マネジメントやマーケティングを間違えると潰れてしまう。・教育面から農業について考えると、自国の食糧を食べることを教えていく必要がある。教育委員会は、大切なものを残していく努力を学校で子どもたちに教えるべきである。 |
| 村松委員代理 | <ul style="list-style-type: none">・規制緩和とは異なるが、豊橋市内で耕作を放棄されている農地について、大胆な土地改良ができないのか。 |
| 白井委員 | <ul style="list-style-type: none">・法律上、土地改良事業では地権者全員の同意が必要となる。国が無料で農地を買い取り、土地改良をして無料で返す、といったようなやり方をしないと難しい。 |
| 佐原会長 | <ul style="list-style-type: none">・分割相続の影響が出ている。地権者が東京などに住んでおり、中には土地を持っていることすら知らない人もいる。 |
| 福井委員 | <ul style="list-style-type: none">・非農家が農地を相続しても貸してくれればよいが、個人の土地はなかなか貸してもらえない。また、地権者が東京に住んでいるならまだよい方で、中には外国に住んでいる人もいる。 |
| 村松委員代理 | <ul style="list-style-type: none">・防災的な観点から、空き家の問題が出てきている。税制が変わるため、所有権を放棄する人が出てくるのではないか。 |
| 佐原会長 | <ul style="list-style-type: none">・税制を多少厳しくしたところで、何も変わらないのではないか。・まちなかの良い空き家は使ってもらいたい。郊外のインフラを整備するより、まちなかの空き家に住むよう助成したほうが、はるかに経費が安い。まちづくりとしても、その方が安心できる。しかし、所有者は家と土地を貸すのをためらう。日本人が持つ家と土地への |

意識が大きな壁となっている。

原委員代理

- ・年齢階級別の女性の転出状況において、愛知県と豊橋市では傾向が同じである。
- ・豊橋市の場合は、女性の転出先のうち半分は名古屋、あとの半分は東京である。
- ・女性に対して男性が多い都道府県として、1位は茨城県、2位は栃木県、3位は愛知県である。愛知県は、女性100に対して109.7である。これら3県は製造業が強い。しかしながら、4位は神奈川県であるが、愛知県より製造業の割合が低い。
- ・東京は男性の方が女性より多い。愛知県や豊橋市で東京のようなまちづくりをしても、やはり男性の方が多くなるのではないか。
- ・女性の方が多く都道府県は、北海道、沖縄県、大阪府、兵庫県である。福岡県も女性の方が多く。
- ・今回は典型的なデータを示した。愛知県の地域特性から、女性より男性の方が多く理由は一概には言えない。

加藤委員

- ・女性の方が多く都道府県として例示したところは観光地である。サービス業は女性が働きやすい。

原委員代理

- ・愛知県の戦略では、女性の活躍に向けた再就職支援などをうたっていく。重要業績評価指標（KPI）としては、女性役員の数などを考えている。
- ・ワークライフバランスは、特に男性に教えなければいけない。また、女性にはライフプランを考えてもらう機会が必要である。
- ・愛知県は男性の方が女性より多いため、あとはバランスをとる取り組みを行えば、全国トップクラスで人口ビジョンを達成できるのではないか。
- ・6月30日のまち・ひと・しごと地方創生基本方針2015の閣議決定において、民の知見を引き出す、つまり国家戦略特区を活用するように示された。豊橋市では、規制緩和への働きかけで実績があるので、これを総合戦略に織り込むことも考えられるのではないか。また、全国で2つしかない技術科学大学のうち、豊橋技術科学大学を

誘致した成功体験がある。豊橋市の地域産業である農業の関連施設として、筑波から国家研究機関を誘致する取組みも考えられる。

吉田委員

- ・女性の登用をどれだけ多くしても、女性の声を真剣に聞こうという男性が増えない限りは何も変わらない。市政 100 周年の時に豊橋駅前のことを言ったが、何も変わらなかった。
- ・あれもこれもやるということは、何もやらない無策ということである。勇気がいることだが、特徴を出していかなければならない。
- ・企業では、人材の募集に特徴を出し、豊橋市の人限定して、「○○できる女性の募集」、などとしたらどうか。

宮川委員

- ・それは法律上できない可能性がある。また、求人を出すときに、豊橋市の人だけなどの強調をしすぎると、おそらく避けられる。

佐原会長

- ・豊橋市が人材のマッチングするときに、市の PR としてそのように呼び掛けることはできる。
- ・インターンシップを採用の目的として行う場合に補助金を出している自治体もある。豊橋市も同じことをやろうとしたが、あまり需要がなさそうであった。

宮川委員

- ・このようなニーズは職種によるのではないか。製造業はインターンシップも可能であるが、現場の場合、インターンシップの取組みそのものが企業にとっても大学にとっても難しい。

佐藤委員

- ・名古屋工業大学では、女子学生がずいぶん増えたという話を聞いたことがある。
- ・提案のコンテストなどをやると、最終コンテストまで残る人のほとんどが女性である。
- ・女性の社会人キャリアアップ、女性のための企業セミナーなど、女性を意識的に出していった方がよい。その方が、女性が参加しやすい。

- ・ 3大学の学生が地元で就職するケースは圧倒的に多い。総合戦略の骨子（案）で、この数値を KPI として例示しているが、どれほどの意味があるのだろうか。
- ・ 豊橋市への愛着を育む学習活動の転機は高校である。高校は県、小中学校は市の教育委員会で、この接続がうまくできていない。少なくとも高校はもう少し戦略性がある。若者を留めることも大事だが、また戻ってくるような仕組みづくりもかなり重要である。
- ・ 豊橋市の近隣市町村でも、総合戦略で3大学の名前が出ている。豊橋市の特権のように記載されるのはいかがなものか。
- ・ 広域連携でどのような事業を実施するのか具体的に書き込んだ方がよい。
- ・ 地域政策学部の地域産業コースでは、志願者を集めることに苦労してきた。豊橋校舎にあるため、地域産業は中小企業というイメージがある。中小企業の魅力をどのように教えていくのか。注目すべき中小企業はたくさんある。そのことは、むしろこの地域外でよく知られている。

佐原会長

- ・ 豊橋市には特徴的な企業がたくさんあり、良い意味で凝り性だと感じている。

吉田委員

- ・ 地域ぐるみの子育て支援とは何か。現状では不十分であることは分かっている。どのように改革していくのか考えを持っているため、聞いて活かしていただきたい。
- ・ 誰がおり、どのような考えを持っているのか、その人の据え方が重要である。
- ・ 子どもが遊んだ体験が、楽しい場所へ帰ろうという気持ちになる。そのようなことも視点に入れてほしい。